

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	灰谷謙二	所 属	芸術文化学部日本文学科
学 位	修士（文学）	職 位	教授
専門分野	日本語学		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	日本語学概論、日本語学講義Ⅱ、 日本語学講義Ⅳ、現代語学専門演習 a / b 尾道学入門、タイポグラフィー 卒業論文（構想・準備）卒業論文（制作）		
大学院	日本語学特講、日本語学演習、研究指導（論文指導） 日本文学・言語文化総論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
<p>(1) 『ひろしまのおもしろ方言集』 H12 松林社 （共著）</p>			
<p>(2) 『日本語学への第一歩』 H18 おうふう（共著）</p>			
<p>(3) 『瀬戸内海事典』 H19 南々社 （共著）</p>			
<p>(4) 日本のことばシリーズ32 島根県のことば H20 明治書院 （共著）</p>			

<p>(5) 『出雲弁検定教科書』H20 ワンライン (共著)</p>	
<p>『西日本海域方言における”海上ネットワーク”検証のための記述的・理論的研究』平成21～23年度科研費基盤研究(C)一般 研究代表者</p>	
<p>本年度を含む過去5年間の研究業績</p>	
<p>(1) 小津安二郎『東京物語』における尾道方言使用の意味 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号 2013</p>	
<p>(2) 隠岐島二地点方言の風位語彙と漁場特定語彙—中村と西郷にみられる地理的環境の比較から— 『西日本海域方言における”海上ネットワーク”検証のための記述的・理論的研究』平成21～23年度科研費基盤研究(C)一般 研究成果報告書</p>	
<p>(3) 漁場の地理的環境と漁場特定語彙 『尾道大学日本文学論叢』第7号2011</p>	
<p>(4) 長崎県対馬市美津島町方言の漁場特定語彙—ヤマアテにみられる開放系漁場の特徴— 『尾道大学芸術文化学部紀要』第10号2011</p>	
<p>(5) 出雲地方の漁場集落の風位語彙と漁場確定語彙—出雲市小伊津町方言からみる開放系漁場の特徴— 『尾道大学日本文学論叢』第5号2009</p>	
<p>現在の研究テーマ(3つまで)</p>	
<p>(1) 中国地方方言における伝播の整流と偏流 H25～27科研費基盤C一般 採択</p>	
<p>(2) 漁業従事者の生活語彙</p>	
<p>(3) 日本方言におけるあいさつ表現の成立と伝播</p>	
<p>研究テーマの進捗状況</p>	<p>(1) に関してはこれから逐次研究を進展させる予定(2)は21～23年度科研の成果をうけ、総括発展の段階。(3)は東北大学小林隆氏主宰のプロジェクト内で研究分担者として論文執筆予定</p>
<p>学会、所属団体における活動</p>	

所属学会・所属団体 役職等

日本語学会、日本音声学会、広島大学国語国文学会、

Ⅲ 社会活動

学外活動

(1) 県立広島大学公開講座 担当

(2) 広島市二葉公民館 公開講座担当

(3) 尾道文学談話会 講師1回担当